

科目名	現代社会	単位	2	学年	1	クラス	1～3組
教科書	現代社会(東京書籍)			副教材	フォーラム現代社会(とうほう)		
月	単元	学習のねらい	学習内容	評価方法			
4	第1部 わたしたちの生きる社会	・右の4つのテーマのうち、テーマ1「地球環境問題」を軸に、世界の諸問題を幸福・正義・公正などの倫理的な視点に立って考えさせる。同時に、教科書中の「クローズアップ」・「スキル」を参考にして学習におけるスキルを身に付けさせ、主体的に学習する方法を身に付けさせる。	テーマ1 地球環境問題 テーマ2 資源・エネルギー テーマ3 科学技術の発達と生命 テーマ4 情報化の進展と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期中間考査 ・提出物 ・発問 			
	スキル Ⅰ 課題の設定と調査研究計画のたて方 Ⅱ わからないことを調べるには Ⅲ ささまざまな情報の見方 Ⅳ レポートのまとめ方 Ⅴ プレゼンテーションの工夫 Ⅵ 討論の方法 α 小論文とは	<具体的展開例の提示> 地球環境問題 教員による基本的事項のレクチャー→生徒による地球環境問題をテーマとする課題の設定→図書館での資料収集→インターネットによる検索→代表者によるプレゼンテーション→ディベートやディスカッションの実施	①調べ学習の方法提示				
5	第1章 青年期と自己形成の課題 1 現代社会の特質とわたしたちの生活	・現代社会の特質や青年期の意義について理解させ、自己形成の課題として問題をとらえ、主体的にいかにかに生きるかを考えさせる。	①現代社会の特質 ②現代社会における青年 ③自己形成と社会のかかわり ④進路と生きがいの創造	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期期末考査 ・提出物 ・ノート ・発問 			
	2 よりよく生きることを求めて		①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 ⑤人間性の回復を求めて ⑥日本の伝統思想の考え方 ⑦外来思想の受容と日本人の自覚				
6, 7	第2部 現代の社会と人間 第2章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは	・現代政治の焦点を中心に指導する。切り口を現代政治とすることによって科目「現代社会」の特色を生かすように指導する。 ・現代社会の時事的な問題や今日的テーマを意識しながら授業を展開する。センター試験においてもリード文は時事的な問題であることが多いので、現代社会は「現代」が大切であることを理解させる。	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制				

月	単元	学習のねらい	学習内容	評価方法
7	2 日本国憲法の基本原理	・環境権などの新しい人権、定住外国人の地方参政権問題などの人権保障の国際化など、現代的なテーマを中心に、人権の歴史・意義などを理解させる。	①日本国憲法の三つの原理 ②基本的人権の保障 ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障	・1学期期末考査 ・提出物 ・発問
9, 10	3 日本の政治機構	・行政国家現象・官僚支配、郵政民営化や特殊法人問題、国会の改革、司法制度改革、在外邦人選挙権制限に対する違憲判決など、新鮮なテーマや教材を活用することによって、現代社会への興味や関心を高めるようにする。	①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治	・2学期中間考査 ・提出物 ・発問
	4 現代政治の特質と課題	・テロ対策特別措置法、イラク復興支援特別措置法、ガイドライン関連法、有事法制関連3法と7法などを例にとり、冷戦後の自衛隊や日米安全保障条約の役割や機能の強化を理解させる。	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加	
10, 11	第3章 個人の尊重と法の支配	・政治の本質とは何かを改めて確認し、どのような歴史的経過を経て現代の民主主義体制が構築されてきたのかを考察させる。その過程の中で「個人の権利」についての考え方と、それに関連する法のあり方が変化してきたことを理解させる。	①法の支配と人権 ②市民生活と法 ③司法と人権 ④他者とともに生きる	
	第2章 現代の経済と国民福祉 1 経済のしくみ	・経済の問題を、経済原理や歴史的な説明を中心に教えるのではなく、現代経済の問題を中心に教え、その問題の理解を深めるために経済理論や歴史的経緯を活用するというアプローチの方法をとる。現代を切り口として物事を捉えていくという方法を身に付けさせる。	①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政	
12	3 変化する日本経済	・特にプラザ合意後の日本経済の歩みに焦点を当て、不良債権問題、金融ビッグバン、財政危機などの今日的な問題と関連させながら理解させる。 ・公定歩合の変動に関するグラフを、具体的にプラザ合意後の景気変動と関連させて考えることができるようにする。グラフや統計資料の読み方をマスターさせる。	①戦後復興と高度経済成長 ②産業構造の転換国際経済環境の変化 ③経済のバブル化とその後 ④日本経済の現在 ⑤中小企業と農業	・2学期期末考査 ・提出物 ・発問
	4 豊かな生活の実現	・具体的な問題、たとえば悪徳商法などの消費者問題、リストラ・過労死・男女雇用機会均等法などの労働問題、介護保険・年金問題などの社会保障問題などを、生徒の生活と結び付けながら説明する。 ・公害の問題を既に学習した第1部の地球環境問題と関連させながら授業を展開する。	①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会	

月	単元	学習のねらい	学習内容	評価方法
1	第5章 国際社会と人類の課題 1 国際経済のしくみと動向	<ul style="list-style-type: none"> 政治や経済の分野と同じように、授業の導入や展開の中で、積極的に国際関係に関する新聞記事を取り上げ、国際経済や国際政治への興味や関心を抱かせる。 わたしたちの日常がいかに世界に結びついているか理解させるため、海外修学旅行の中止などの具体例を示しながら説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みとその変化 ④対立と協調の時代 ⑤グローバル化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末考査 ・提出物 ・発問
2	2 国際政治のしくみと動向	<ul style="list-style-type: none"> ウェストファリア条約によって成立した主権国家を中心とする国際社会が、今日変容していることを理解させる。 冷戦の終結を宣言したマルタ会談の意義を理解させ、東アジアにおいてはまだ冷戦構造が存続していることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国際社会の成り立ち ②国際紛争を避けるしくみ ③国際連合の現状と課題 ④東西対立とその後の世界 ⑤核兵器と軍縮への取り組み 	
3	3 国際社会の現状と課題 第3部 ともに生きる社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 反グローバリズムの運動などを例にとり、ボーダーレス化する経済の光と影を認識させる。「地球的規模で考え、地域で行動する」ことの重要性を理解させる。 EUにおける地域的経済統合の特色を、他のNAFTA, EFTA, ASEANなどの地域的経済統合と比較しながら理解させる。 <p>教科書に載っている6つのテーマのうち一つを選択し、家庭での情報収集と平行させて自分自身の考えをまとめさせ、800字程度の小論文を作成させる。また郷土の歴史について学び、その未来像を考察させる機会とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①地域経済統合の進展 ②多様化する世界経済 ③南北問題 ④人口・資源・食料問題 ⑤民族問題と紛争 ⑥国際社会と人権 ⑦日本の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・若者の労働環境をどう改善するか？ ・ゴミの分別・回収の負担の意義とは？ ・安心して豊かに暮らせる社会にするためには？ ・発展途上国の開発を促す貿易のあり方は？ ・エネルギーを持続的に利用可能にするには？ ・少子高齢化社会における世代間格差をどうするか？ <p>※ふるさと富山の歴史</p>	